

# 議会だより



## 第80号の掲載内容

- 第4回定例会の概要……………2P～3P
- 質問の追跡調査……………3P～4P
- 一般質問……………4P～6P
- 委員会の活動……………7P～8P
- 会議出席状況……………9P
- 行事予定・議員表彰……………10P

鹿部スキー協会では、1月19日(日)から2月9日(日)までの期間、毎週日曜日、函館七飯スノーパークで「子どもスキー・スノーボード教室」を開催しています。指導は協会員と町内の有志ボランティアの方々がを行い今年度は、約30名の子供たちが参加しております。

今シーズンは雪不足が心配されましたが、参加者は元気いっぱいウィンタースポーツに取り組んでいます。

発行/鹿部町議会 編集/鹿部町議会運営委員会

委員長 浦 梅吉、副委員長 高橋 茂夫  
委員 千葉 光義、委員 船橋 敦子

〒041-1498 北海道茅部郡鹿部町字宮浜299  
TEL 01372-7-5296 (直通) FAX 01372-7-3086

# 令和元年第4回定例会～

令和元年第4回定例会は、12月12日に招集され会期を2日間と決め町長の行政報告が述べられ、その後3名の議員が一般質問を行いました。また、条例5件、補正予算5件、意見書案1件の審議を行い全て原案のとおり可決され会期を1日残して閉会しました。なお、審議された議案の主な内容等は次のとおりです。

※今月号から町長が提出した議案に対する主な質疑・答弁の内容及び議員が行う一般質問の追跡調査を掲載しております。

## 条例

◆鹿部町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

◆鹿部町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について  
人事院勧告に基づき、一般職の給与を平均0.1%引上げ、期末手当の支給率を100分の5引上げる改正と、一般職の期末手当改正に伴い、特別職の期末手当も同様に100分の5引上げるものです。

◆鹿部町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について  
地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律が令和2年4月1日から施行されることに伴い、一般職非常勤職員として、新たに会計年度任用職員制度が導入されることから、当該制度を運用するため、本条例を制定するものです。

### ○質疑

鹿部町の臨時職員の人数と今回の改正による人件費のアップ額は、どれ位の予

算を想定しているか。

### ●総務・防災課長

鹿部町の臨時職員と嘱託職員の人件費は併せて75名となっており、人件費に対する影響額は、1500万円程を見込んでいます。

◆地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について  
地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴い、関係条例の一部改正を一括して行うため、本条例を制定するものです。

◆成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について  
成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律が、本年12月14日から施行されることから、関係条例を改正するため本条例を制定するもの

です。

## 補正予算

◆令和元年度鹿部町一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ3774万円を追加し、予算総額を29億9295万9千円としました。

◆令和元年度鹿部町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算について  
歳入歳出それぞれ5994万円を追加し、予算総額を8億2086万5千円としました。

◆令和元年度鹿部町一般会計繰出金と基金積立金の振り分け方と国民健康保険税の見直しについて

### ○質疑

一般会計繰出金と基金積立金の振り分け方と国民健康保険税の見直しについて

お聞きしたい。

副町長・民生課長

過去の一般会計からの持出し分として繰越分を一般会計に戻して積立する。現年度分(30年度)の黒字を国保会計の基金に積立する。平成30年度から広域化となり、各自自治体の保険税を低く抑えるため北海道特例の保険税率を採用しているので、3年位は状況を見据える必要がある。

○質疑

鹿部町の医療費の動向等を町民に開示して頂きたい。

●町長

情報開示等については、進めて参りたい。また、保険税率の見直しについては、北海道の状況を見ながら判断したい。

◆令和元年度鹿部町介護保険事業特別会計補正予算について

保険事業勘定分の歳入歳出額をそれぞれ3120万円追加し、予算総額を4億269万2千円としました。内容は、居宅及び施設等サービス費の増加に伴い、介護サービス等給付費2750万円、高額介護等サ-

ビス費180万円、特定入所者介護サービス費190万円の追加が主なものです。

○質疑

当初予算よりも介護給付費が増額になっているが、その要因は。

●保健福祉課長

介護認定を受ける方が増加傾向にある。また、介護老人福祉施設や特別養護老人ホームを利用する方が当初の見込みを上回っている。

◆令和元年度鹿部町後期高齢者医療特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ158万4千円を減額し、予算総額を5621万6千円としました。主な内容は、後期高齢者医療納付金150万2千円を減額したものです。

◆令和元年度鹿部町水道事業会計補正予算について

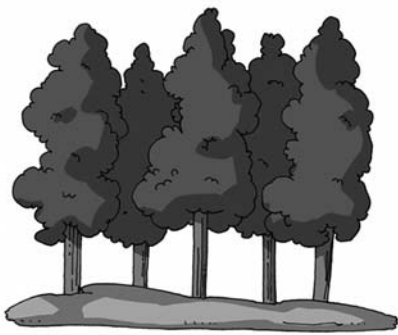
収益的支出を4万8千円追加し、支出の総額を9529万8千円としました。内容は、人事院勧告による、職員手当等4万8千円を追加したものです。

意見書の提出

次の意見書を可決し、関係省庁等へ提出しました。

◆林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

○提出先  
衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣



質問の追跡調査

鹿部町議会では、議会改革の一環として、議員の一般質問に対し、行政側が「検討したい」など即答をさける答弁をした場合、町長等は次の定例会で行政報告の最後に進捗状況や取組内容を報告する「一般質問の追跡調査制度」を前回の一般質問から試行的に実施することにしました。ここに掲載されている内容は、その要旨をまとめたものです。

●環境問題について  
(令和元年第3回定例会)  
高橋 茂夫議員

■質問・答弁・取組状況

質 問 国道、道道沿い及び折戸川河口のゴミ問題について、今後の具体的な方策を町長にお伺いします。

答 弁

町民の意識改革を図る意味で、ボランティア団体等によるゴミ拾い活動の状況等について広く周知するなど啓蒙活動を実施しながら意識改革を図って参りたい。

取組状況

○令和元年9月現在  
冬期間中は、清掃活動も

●幼稚園の民間移行について  
(令和元年第3回定例会)  
高橋 茂夫議員

■質問・答弁・取組状況

少なくとも、今後効果的な取組について更なる協議を進め、随時実施して参りたいと考えている。

質 問

町営事業から民間事業に移行する事により、様々な

メリットが得られると思いますが、町長の考え方を伺います。

**答弁**

鹿部町らしい魅力あふれる教育及び保育環境を作り上げるため、識者のご意見を頂きながら現在検討を進めている。

**取組状況**

○令和元年11月現在  
教育委員会及び保健福祉課で10月に識者を交え、当町の幼稚園等を公設または民設で運営した場合の経費等について算出しており、当町における最適な幼稚園等について様々な観点から検討し、今年度中に方向性を決定して参りたい。

●町内会ゴミステーションについて  
(令和元年第3回定例会)  
吉 英樹議員

**質問・答弁・取組状況**

質問  
町内の事業所がゴミステーションを利用している姿を見る事がありますが、町として、どの様に指導を行っているか、お伺いします。

今後、商工会等と連携し事業所等への指導徹底を図って参ります。

**取組状況**

○令和元年11月現在  
事業所へのゴミの取扱い周知について、商工会事務局長及び担当者と協議を行った。また、商工会が主催する各事業所が集まる会合において、事業系ゴミの適正な処理方法について周知するよう依頼している。  
今後の改善状況を注視しながら、場合によっては会合等の場において、ゴミの適正処理について説明・周知をして参りたい。





高橋茂夫 議員

**公共交通の利用促進策について**

今年度、生活バス路線維持対策補助金に770万の予算が計上されております。鹿部駅線は、主に高校生の通学、車のない町民の貴重な交通手段だと思います。この路線の利用実態は如何でしょうか。

**A・1**

高校生の大半は、家族などによる送迎となっており、鹿部駅線は1日6往復で、平均乗車密度は、1.5人となっております。

**Q・2**

高校生等に対するバス利用料金の補助について。

**A・2**

高校生の子どもを持つ親の支援についても子育て支援策として考えて参りたい。

**Q・3**

路線ルートの見直等について。

**A・3**

道の駅開業時には路線ルートの延伸を図り、道の駅まで路線を伸ばしている。また、運営会社では利用実態に合わせバス停の位置の変更等を行っている。

鹿部町地域公共交通活性化協議会において、議論を

深めるとともに、今後も運営会社などと継続的に協議・検討を進めて参りたい。

**Q・4**

ふるさと納税等の基金を活用して鹿部で子育てをしたいと思うような施策を検討して頂きたい。また、路線バスを利用する小学生の安全対策として、小学校前にバス停を設置することは出来ないか。

**A・4**

高校生の支援については、義務教育と言う枠があつて、それ以上の支援については、なかなか手を付けてこなかったが、これからは0歳から18歳まで切れ目のない子育て支援を何とか考えて行きたい。

路線バスを利用する小学生の安全対策については、鹿部町地域公共交通活性化協議会の中で十分に議論して頂き、町としてもその辺を提案したい。





佐藤頼幸 議員

## 食と観光によるまちづくりについて

町では、食と観光によるまちづくりを推し進めるため、昨年11月に「つぼんA級グルメのまち連合」の設立に参画し、新たな取組みに着手したと承知しているところ です。

そこでA級グルメを推進するための人材育成、起業・就業につながる活動や町独自の事業などの進捗状況について、お伺い致します。また、併せて観光事業の成果、実績などについても、お伺い致します。

### ■質問と答弁の要約

Q. 1

A 級グルメを推進するための人材育成、起業・就業につながる活動について。

A. 1

つぼんA級グルメのまち連合は、食に着目したまちづくりの取組を加速し、地域の活性化につなげてい

くため、理念を共有し連携して取組を進める組織として昨年11月に設立し、これまで連合では、首都圏においてPRイベント「A級グルメフェア」や交流イベント「ちよい飲み」等を開催し、人材の募集や、販路の開拓、情報発信等の活動を共同で行っている。

来年度からは、地域で起業を目指す食の学校「A級グルメアカデミー」の開講を予定しており、今後こうした取組を継続することで、食による交流・定住人口の増加につなげることが出来るものと考えている。

Q. 2

町独自の事業等の進捗状況について。

A. 2

本町においても6月に「つぼんA級グルメのまち連合アドバイザー」の寺本英仁氏を招き、町民を対

象にA級グルメ講演会を開催している。

また、10月には函館市において、本町の食材を広くPRするイベントを開催している。町民の方々の創意工夫による料理が来場者に大変好評だったこともあり、参加された方々にも地元でとれた食材や鹿部の良さを認識いただいたイベントになったと思っている。

このような取組を通じ地域ならではの食を守り、それを通して地域に人を呼び込み、地域の誇りにつなげるまちづくりを推進したいと考えている。

Q. 3

観光事業の成果、実績等について。

A. 3

観光振興については、「しかべ観光のグランドデザイン」を指針として道の駅を観光拠点と位置付け、各般の施策に取組んでいる。今年度4月から道の駅に指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用した運営体制づくりを進めるとともに道の駅の機能を充実させ交流人口の拡大を図り、その効果が町全体に広がっ

ていくことを期待している。今年度上半期の入込は、前年度より3万2千人増の35万6千人の見込みとなっている。

Q. 4

A級グルメで使用する地元食材は。

A. 4

私からこれがA級グルメの食材ですと言うのではなく、皆さんで決めて頂きたいと考えている。

Q. 5

A級グルメの内容を詳しく教えて頂きたい。

A. 5

議員全員協議会で何度か説明し、ある程度の内容を皆様方にイメージとして伝えております。

Q. 6

A級グルメの経済効果と人件費の特別交付税措置について。

A. 6

道の駅を開業して8ヶ月後に測定した経済効果は、2億から3億の効果があった。A級グルメを行うことにより更なる経済効果になるだろうと考えている。算定は、始まってから少し期間を設けて実施したい。

雇入れは、基本的に「地域おこし協力隊」を考えている。この「地域おこし協力隊」は一人につき200万円程度、交付税措置される。また、「地域おこし協力隊」が行う事業に対して2000万円の交付税が町に入ることになる。

Q. 7

浜のかあさん食堂への影響は。

A. 7

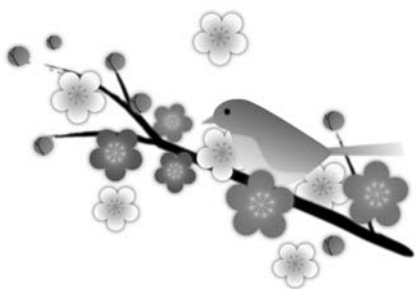
お互いにPRして行けば悪い影響は無い、良い影響しかないと思っている。

Q. 8

A級グルメの料理人をどのように確保するのか。

A. 8

4月頃に核となるような料理人を募集したいと考えている。





川村裕司 議員

鹿部バイパスの延長  
について

国道278号鹿部バイパスの完成から7年程になりますが、南茅部方面のルートは大岩地区から海岸線の通行となっており、高波等により通行止めになる事も考えられます。また、大規模な津波になった場合は完全閉鎖になる可能性が高いと思います。

このことから関係機関と協議されていると思われるのですが、災害対策として、どのように考えているか、お伺い致します。

■質問と答弁の要約

**Q. 1** 大規模な津波災害時における大岩地区から南茅部方面への避難道の確保について。

**A. 1** 本町においては、北海道が示した地震津波浸水予測を基に「鹿部町津波避難計

画」を作成して対応している。予測では、大岩地区も津波浸水区域に指定されており、沿岸最大水位は9m、第1波到達時間は51分となっております。

住民の避難場所は大岩地区会館と渡島リハビリテーションセンター体育館と定めていることから津波災害においては、南茅部方面へ避難するようなことは想定されていない。

**Q. 2** 関係機関との協議について。

**A. 2** 南茅部方面への避難として考えられるのは、駒ヶ岳の大規模噴火による全町避難が想定されることから現在、避難先となる函館市と担当者レベルで話し合いが行われている。

避難については、自家用車や支援機関の車両により、

川汲を経由して函館市へ避難することで協議を進めている。

**Q. 3** 災害対策について。

**A. 3** 最近、想定外の被害が全国各地で頻繁に発生している状況にありますので、本町においても全町避難規模の駒ヶ岳噴火災害と津波災害が同時に起こらないとも限りません。

議員ご指摘の様に防災対策の観点からも鹿部バイパスの延長については大変重要であることから、議員はじめ町民皆様との議論の場を設ける等しながら慎重に見極めて参りたいと考えている。

**Q. 4** 鹿部バイパスの延長を早めるための要望について。

**A. 4** これまでの経緯からするとバイパスを開通させるために現道の拡幅と言うことで一応の決着が付いている。議員の皆さんと議論して、また町民の声を聴きながら慎重に見極めて参りたい。

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は、3月中旬に開催される予定です。

～傍聴手続きは簡単です～

傍聴席の入り口にある傍聴人名簿に住所と氏名を記入するだけです。



# 総務経済常任委員会所管事務調査

## ◇調査事項

町職員住宅の現況と今後の整備計画について

水道事業施設の視察について

## ◇調査年月日

令和元年11月1日

## ◇調査方法

担当課より関係資料に基づき説明を受け、現地調査を実施した。

## 町職員住宅の現況と今後の整備計画について

### ◇調査結果

町職員住宅は、教職員住宅を含め町内13カ所に25棟49戸が整備されている。

家賃は、公営住宅法の家賃算定を参考にして住宅の規模や経過年数等によって算出している。また、はまなす団地の教職員住宅については、小中学校の教員を優先的に入居させているが、入居状況によって空きがある場合は、町職員が入居している。



役場庁舎裏職員住宅【築年数46年】

職員住宅の建設に係る予備調査を平成28年12月に実施し、課題などの整理を行っている。この予備調査で、公営住宅の耐用年数を参考に調査を行った結果において、今年度耐用年数を超えるものを含め全管理戸数の7割弱（18棟34戸）が耐用年数の超過に加え、耐震性に不安があることが判明した。

このことから早期に解消を図るため5カ年で34戸の

建替えと解体を行う年次計画と基本方針を策定したが、その後、土地利用計画の策定、更には庁舎移転の財政負担などから予備調査を実施した時と大きく状況が変化している。

現在、職員住宅の整備に係る基本構想ビジョンを策定するため具体的な取組を進めている状況にある。

### ◇調査意見

町職員の定住対策や人材確保の観点から住環境の整備は重要と考えるので、財政負担の軽減が図られる民間のノウハウを活用した効率的な整備、民間が建設した住宅を借入れる方式の検討等を行い、早期に町職員住宅の整備が実現されることを望むものである。

## 水道事業施設の視察について

### ◇調査結果

鹿部町の水道事業は、昭和28年10月に簡易水道としての事業認可を受け、創設当初の給水人口は5000人、1人1日当たりの最大給水量15ℓ、1日の最大配水量750m<sup>3</sup>で始まり、そ

の後、昭和38年に上水道としての事業認可を受け、給水人口5900人、1人1日当たりの最大給水量195ℓ、1日の最大配水量1150m<sup>3</sup>に拡張した。水需要の高まりに伴い上水道を安定的に供給するため昭和51年3月まで、5期にわたって拡張工事を実施している。平成2年から大規模な施設更新を行い平成3年に水道事業変更認可により、給水人口を5200人、1人1日当たりの最大給水量635ℓ、1日の最大配水量3300m<sup>3</sup>に変更し現在に至っている。

当町の上水道は、鹿部川から取水し、沈砂池、着水井を経由して緩速ろ過方式により、ろ過された後に、浄水池で塩素を投入し配水池で貯水した水がそれぞれ地域に配水されている。浄水場施設については、施設更新から30年経過しているため、その他の水道施設と併せて長寿命化に向けた検討を行っている。また、事業概要の整備や水需要の予想、財政計画の策定、更には資産の現状や将来見通しの把握、事業の優先度等を検討し、今年度中に今後の整備計画を策定する予定となっている。

### ◇調査意見

水道事業の使命は、住民に安全で信頼される水を安定供給することが本事業の趣旨であることから施設の確な維持管理と合理的な水利用を推進し、水質管理体制の尚一層の強化に努め事業運営に万全を期すことを望むものである。



鹿部川上流の取水施設

# 委員会の活動

# 委員会の活動

## 民生文教常任委員会所管事務調査

### ◇調査事項

子育て支援事業の現況について

### ◇調査年月日

令和元年11月15日

### ◇調査方法

担当課より関係資料に基づき説明を受け、調査を実施した。

### ◇調査結果

保健福祉課が所管する母子保健事業の健診については、全て母子保健法に基づき実施されており、対象月齢により健診内容に多少の違いはあるものの、乳幼児の発育・発達が順調であることを確認するとともに心身の健全な発育を促すことや、身体発育・精神発達など幼児期における健康保持増進を図ることを目的としているものである。

平成30年度の受診率は赤ちゃん健診で7割程度となっているが、1歳6ヶ月健診・3歳児健診においては100%となっている。また、育児教室であるバ

ンビ教室を生涯学習課と共同で実施しており、親子相互の交流や育児不安解消などを目的とし、年10回、テーマを決めた活動を行っている。



育児教室 バンビ教室のクリスマス会

平成30年度の登録数は23組となっており、対象となる親子の約半数が参加している。更に、子育てについての相談や情報提供等を行い、母親の育児不安を軽減

し子どもが健やかに育つよう支援することを目的とし、赤ちゃんなかよし広場を年6回実施している。

平成30年度の登録数は17組となっており、対象となる親子の約3分の1が参加している。また親子のみならず、妊婦も参加できることになっている。

民生課が所管する子ども医療費助成事業は、子育て世帯の経済的負担軽減を図り、人口減少に伴う少子化の防止や定住促進等に寄与することを目的として、対象年齢を平成27年度に満18歳の年度末までに拡大し、入院時の食事代等を除く保険適用となる自己負担金の全額を助成している。

平成30年度の助成額は125万8千円となっており、小学校低学年以下の給付実績は大変多く、年齢が上がるにつれ減少傾向となっている。今年度から森町・八雲町で年齢要件が18歳に拡大されたことに伴い、函館市を除く管内全ての市町で同じ年齢要件となっている。

教育委員会生涯学習課が所管する教材無償化事業は、

子育て世代の費用負担軽減を図り、子育てしやすいまちづくりを推進することを目的として、幼稚園教育及び義務教育に係る保護者負担分の教材費の全額無償化を平成30年度から実施している。

平成30年度の実績は、幼稚園児71名に対し、通園力バン・粘土等の購入費で76万4542円となっている。また、小学校児童176名に対し153万3610円、中学校生徒87名に対し85万8438円となっており、主な購入品目はそれぞれ各種ドリル・テスト等となっている。

同じく生涯学習課が所管する子育て支援事業は、保護者等の就労及びその他の事情により、家庭が常時留守となっている園児・児童の保護及び育成を行うため、預かり保育ひまわり及び鹿部キッズクラブを実施している。

預かり保育ひまわりは幼稚園児を対象とし、しかべ幼稚園において平成30年度から、鹿部キッズクラブは小学校児童を対象とし、中央公民館において平成27年

度からそれぞれ開設している。

平成30年度の実績をみると、利用率が預かり保育では全園児の4割強、キッズクラブでは全児童の約4分の1という割合であることから、どちらもニーズが高いことが窺える。

### ◇調査意見

各課の子育て支援事業の現況については以上であるが、それぞれの取組・実施状況は示されてはいるものの、管内又は同規模の町と比較して鹿部町でのこれに係る事業がどのような位置づけにあるのか等判断材料となり得るものがないため、そのような比較資料の提出を求めるとともに、少子化は現実として今後も避けられない問題であると思われるため、どのような施策が少子化の防止や子育て支援に効果があるのかなど常に検証・検討を重ねながら、将来にわたって引き続き繋ぎ目・切れ目のない支援が行われていくことを望むものである。



# 議員全員協議会

## ■令和元年第6回議員全員協議会

○開催年月日

令和元年12月2日

### ○議題

1. 会計年度任用職員制度について

制度の目的や概要について報告を受けました。

2. 役場新庁舎建設の進捗状況について

新庁舎建設に係る基本理念や最新の外觀イメージ図、平面図等について資料に基づき報告を受けました。

3. 道の駅しかべ間歌泉公園の改修等について

道の駅の改修工事にあたり、施設の修繕箇所や事業費等について協議しました。

4. 中小企業チャレンジ支援事業補助金の交付実績について

今年度、交付した中小企業チャレンジ支援事業補助金の種別内訳や申請内容等について報告を受けました。

5. 地方公務員の兼業について

鹿部町職員が他の職を兼業する場合の許可基準等について報告を受けました。

6. 議案等の発送時期について

案件が多岐にわたる3月の予算議会及び9月の決算議会の際には、議員の議案等を1週間前に配付することと決定しました。

## ■令和元年第7回議員全員協議会

○開催年月日

令和元年12月6日

### ○議題

鹿部小学校における煙突のアスベスト対策について

これまでの経緯と今後の対応策等について報告を受けました。

## 令和元年11月～2年1月 本会議及び各委員会等の出席状況

(○は出席、×は欠席(病欠含む)、△は遅刻・早退、―は該当なし)

会 議	高橋茂夫	吉英樹	千葉光義	野田重毅	船橋敦子	中川一	浦梅吉	佐藤頼幸	三谷百十樹	川村裕司
総務経済常任委員会所管事務調査 (11/1)	―	○	○	×	―	○	○	―	―	○
民生文教常任委員会所管事務調査 (11/15)	○	―	―	―	○	○	―	○	○	―
令和元年第6回議員全員協議会 (12/2)	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
令和元年第7回議員全員協議会 (12/6)	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○
議会運営委員会 (12/9)	○	―	○	―	○	○	○	―	―	―
令和元年第4回議会定例会 (12/12)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総務経済常任委員会 (12/12)	―	○	○	○	―	○	○	―	―	○
民生文教常任委員会 (12/12)	○	―	―	―	○	○	―	○	○	―
議会運営委員会 (議会だより編集 1/23)	○	―	○	―	○	○	○	―	―	―

# 議会の行事

## 11月

1日 しかべ幼稚園おゆうぎ会  
(議長及び議員)

総務経済常任委員会所管事務調査  
(全委員及び議長)

11～13日 渡島町村議会議長会行政視察及び全国  
町村議会議長大会 (議長)

15日 民生文教常任委員会所管事務調査  
(全委員)

20日 北海道日本ハムファイターズ鹿部町応  
援大使トークショー (議長及び議員)

23日 地域フォーラム in きこない (議長)

26日 鹿部町老人クラブ連合会創立50周年記  
念式典 (議長)

29日 第3回南渡島消防事務組合議会定例会  
(関係議員)

## 12月

2日 第6回議員全員協議会 (全議員)

6日 第2回鹿部町漁業系廃棄物リサイクル  
施設管理委員会 (議長)

第7回議員全員協議会 (全議員)

9日 議会運営委員会 (全委員及び議長)

10日 第3回鹿部町での地熱発電を考える検  
討会 (議長及び関係議員)

12日 第4回議会定例会 (全議員)  
総務経済常任委員会(全委員及び議長)

民生文教常任委員会 (全委員)

## 1月

2日 鹿部消防出初式 (議長及び議員)

7日 七飯消防出初式 (関係議員)

8日 北斗消防出初式 (関係議員)

16日 町内会長交流会 (議長)

23日 議会運営委員会 (全委員及び議長)

30～31日 渡島町村議会議長会定期総会 (議長)

## 全国町村議会議長会創立70周年記念特別表彰

この度、永年議会議員（30年以上在職）として議会活動を通じて地方自治の振興及び住民福祉の向上に寄与した功績が認められ現職議員2名と前議員1名が全国町村議会議長会より表彰されました。



佐藤 頼 幸 議員  
(議会議員在職34年)



野田 重 毅 議員  
(議会議員在職30年)



竹ヶ原 公勝 前議員  
(議会議員在職32年)